



グリーン交悠録

社会貢献への意欲がアオバとの出会い

エーオーエー・アオバ社長 白井常雄 さん



栃木ヶ丘ゴルフ倶楽部

我がゴルフも予防医療も 取り組む姿勢が大事

大中 喜寿を卒業されて素晴らしい人生を謳歌されていますが、アオバとの出会いは？

白井 48歳の時です。人生いろいろありましたが、その頃から社会貢献したいという思いが沸々と沸いてきたのですが、なかなか社会貢献と事業を両立するのは難しく、追い求めた結果、昭和48年に臨床医と生化学者である丹羽耕三というドクターに出会いました。彼はベーチェット病の研究者で8歳の子供を白血病で亡くしています。入院した高知医大で抗がん剤を投与され、医者でありながら苦しむ我が子を見送ったのです。そこで彼は人間が作った抗がん剤が人間をこんなみじめな姿にするのかと気づき、自然界にあつて人間を病気や疾病から守るものを見つける事が自分の役割だと確信するのです。

大中 その時彼は何歳？

白井 今84歳ですから55、6歳ですね。その後約3年間必死に研究をして、胡麻、大豆、ハト麦、玄米の糠、ビタミンC摂取にはユズ汁がいい

等、複合的に体内吸収する事が大切で、又遠赤外線で低温焙煎した上で、吸収率を上げるために麹で発酵させ、細胞膜は脂質で出来ていて、これを透過させるためにゴマ油で油剤化する、これで世界特許を確立したのです。

大中 その商品名は？

白井 抗酸化製品の意味でAOAと言う商品名です。

大中 ドクターが完成させたのは何歳？

白井 神戸で出会う丁度半年前ですから55歳くらいです。社会貢献出来る仕事に出会えたと思いました。

大中 アオバの最盛期の売り上げは？

白井 〃真水〃で67億円、末端で110億円です。訴求力だと思えますが、実際は治る人と治らない人がいます。治った人は明るい方が多く、暗い人はなかなか治りにくいようです。要は薬に惚れることですが、その意識も重要な働きがあると知って、意識の勉強に入りました。

大中 それで日本免疫研究所なんですね。

白井 2010年頃、ロバートローゼンという米国の経済学者で心理学者が書いた「ザ・ヘルシー・カンパ

ニー」という本に出会いました。企業は社員・家族の健康を守るために、コストではなく、むしろ投資で対応した方が効果があるという内容で衝撃的でした。私は丹羽氏の自然療法、免疫療法を推進し、普及させるために25年努力し、対処療法は効果はあるが副作用も強いことを知っています。この本に出会って、予防医療の時代が始まると思いました。

大中 そこで最初に取った行動は？

白井 予防医療に関するデータ収集です。米国は2、30年前から予防医療に入っていて、既に癌が減り始めていると知りました。もう対処療法満開で年々4、50兆円使っても国民の健康が守れない、という予感がありましたね。

大中 主治医が「10年で医療費はあと15兆円増える」と言っています。日本だけじゃなく世界各国がウルトラ高齢社会に突入します。真面目に生きたら125年、予防治療すれば90歳は生きるそうですが……。

白井 もう一つ、健康年齢と寿命との差が男女平均にすると実際に10年あります。このギャップが高額医療費の大元で、いかに健康年齢と生涯寿命のギャップを短くするか、これ



が医療費削減に繋がります。これがすなわち予防医療です。日本でも漸く健康経営・予防医療の重要性が認識されて、経産省・厚労省がタッグを組んで企業へ健康経営への取組を推奨し始めています。

大中 日免研が目指すものは？

白井 認知行動療法と言う「受け止める」という決心をどれ程の密度と意識でやるか、会社の義務だけでは実効は絶対上がりません。そこで実践健康経営士という人材を育てて行きたいのです。

「潜りのプロ」からの転向

大中 ゴルフとの出会いは？

白井 35歳の時です。元々ダイバーで、第1次石油ショックでダイビングの仕事から敗退して意識転換にゴルフでも、と友人から誘われました。

大中 最初の印象は？

白井 難しくて、腹が立って。大中 潜りの方が簡単でしたか？

白井 そう、でも私は潜りの指導者の養成でしたが、負けん気が強いので、一念発起してそれ以来ゴルフ三昧です。東京・三鷹の姉の家に岡本綾子さんが寄宿していたので、姉の娘達とは姉妹のようでしたよ。

大中 彼女はもうプロでしたか？

白井 ええ。姪は両方ともアメリカンスクールに行っていたのです。長女の主人が日系2世なんです。

大中 それで綾子さんが日本を脱出した時に姪子さんがトーナメントのアシスタントをしたんですね。アーノルド・パーマーはIMGの社長と出会った瞬間、マネージメントの総てを渡し、勝負に徹することができたんです。それより、綾子さんからの直接指導は？

白井 受けてはいません。たまには一緒に回つてと言うリクエストをしたことはありません。

大中 彼女の凄い所はアマチュアの目線で教える事です。1日1000個打つ人と、ゴルフ練習場で1箱打つ人とは全く違います。倉本プロとも親しいとか？

白井 姪姉妹の姉は綾ちゃんについて米国へ、妹の主人が倉本氏で、私が花嫁の父親役です。仲がいいですよ。大中 ゴルフはやってよかった？

白井 もちろん、館山のシーサイドあおばという海の家に行った時は、館山カントリーで、1日夫婦で楽しくプレイしています。

大中 私のコンペにも2年連続で参

加して頂きましたが、他にゴルフ会はありませんか。

白井 「兆浪会」が年2回10組で続いています。栃木ケ丘ゴルフ倶楽部で私は後援者です。

大中 ところで、始めてから1000を切ったのはいつ頃？

白井 2、3年ですね。90を切るのに15年くらいかかりました。

大中 80台が当り前になったのは？

白井 20年位前で、ハンディは14まで。今は押しも押されぬ「110の王」ですよ。3回に2回は家内に負けています。このところめっきり少なくなつて月2、3回です。

大中 兆浪会以外には。

白井 小石川法人会が年に2回。20組ぐらいで、アメリカがメインです。あと東証の文章支部で、年1回です。

大中 私も「一球会」と言う会があつて、ホールインワンしたらお金がいるため、メンバー20人で計200万円をプールしています。そして幹事じゃなくやつた人が電話をかけるんです。もともとこの会だけです。本コースの大会で200万円入ったら、コンペのお祝い返しに使いなさい、というシステムです。

白井 面白いですね、私はホールイ

ンワンを3回やりますよ。

大中 それは凄いですね。

白井 1回、2回はキャディ付きで、3回とも栃木ケ丘です。1回目は130のショートで入ったのが見えました。当時は8番アイアンでしたか。2回目は145くらい、3番ホールで6番アイアンでした。

大中 貴方の名前がゴルフ場にあるんですか？

白井 いえ、栃木ケ丘ではやらなから1回目はいいんですが、2回目は物凄く調べられましたよ。ゴルフ場がちゃんとやってくれたのでよかったですが。

大中 私は45年間、年間120回、ピンに当たったことはありますが、入りません。入る人は入るんです。

伊藤園の本庄氏は12回、青木功より多いんです。車内では自分の補助席に鉄アレイを置いて、ホームコースのスリーハンドレッドに入る20分前から屈伸や握力運動を始めるんです。練習場で2箱、そしてパッティング、さあ始めましょう、とリズムができています。

白井 そうそう、取り組む姿勢が大事で、予防医療と全く同じですね。